

にじ

新任のご挨拶
(企業長 富中 伸介) …… P2

新年のご挨拶 …… P3~4

- がん診療における診療連携手帳パスの運営開始について …… P5
- 第35回高知医療センター職員による学会出張報告
：第17回ISSHP（国際妊娠高血圧症会議）（産科 副医長 永井 立平） … P6
- 地域医療連携病院のご紹介（医療法人きび きび診療所） …… P7
- 高知医療センターイベント情報 …… P8

1

JANUARY.2011 Vol.63

謹賀新年



高知医療センターの基本理念
医療の主人公は患者さん
高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化

新任のご挨拶

企業長 畠中 伸介



新たな運営体制となった高知医療センターの運営を確かなものに。今後とも皆様の期待に応えることのできる病院として発展していくよう、職員と共に全力で取り組んでまいります。

新年あけましておめでとうございます。

2010年12月3日に新しく高知医療センターの企業長に就任しました畠中です。年も押し詰まった時期での突然の企業長の交代と言うことで驚かれたことと思います。といいながら私自身が一番驚いていますし、責任の重さをひしひしと感じています。このご挨拶を書いています今日は就任してまだ3日目です。これから一生懸命、高知医療センターのこと、また医療をはじめ、福祉、介護などの関係する分野について勉強しながら、当センターが目指しています「患者さんが主人公の病院」、「高度な医療を提供する病院」、「自治体病院としての使命を果たす病院」として県民、市民の皆さまの期待に沿えるよう全力で取り組んで参ります。

高知医療センターは、全国初の病院PFI事業を導入して開院以来、高知県の基幹病院として地域の医療機関と連携し、高度な医療の提供に努めてまいりまして、皆様方から高い評価をいただけるようになってきたと思っています。2010年3月31日には、PFI事業を解約して病院の運営体制の見直しが進められ、更には、ドクターヘリの導入、精神科病棟整備といった新たな機能の充実の検討が前企業長のもとで進められてきたところです。

こうした状況の中での交代となりましたが、私の使命は、新たな運営体制となった医療センターの運営を確かなものにすることだと思っています。そのため、来年度の経常収支の黒字化という目標達成に向け取り組むとともに、救命救急センターをはじめとする5つ

のセンター機能を有する当センターがその力を十分に発揮し、今後とも皆様の期待に応えることのできる病院として発展していくよう、職員と共に全力で取り組んでまいりますので、高知医療センターをこれからもどうかよろしくお願ひします。



病院長 堀見 忠司



新しい年を、県民・市民の健康を守り、日本一の健康長寿県構想を実行している高知医療センターから謹んでお慶び申し上げます。

昨年の夏は本当に暑く、また異常な降雨による野菜への大きな被害が出て、地球の生命に危険さえ感じましたが、今年はどうなることでしょうか？！

私はこれまで、『ダーウィンの進化論』を引用して「変化は進化」という言葉を唱えてまいりました。自然界の変化は大きな被害をもたらしましたが、わが高知医療センターでも大きな変化がありました。昨年の最も大きな変化は、PFI 事業の終了による新たな体制です。また昨年の診療報酬制度の改定は、新たな変化の中で飛躍への布石になり、明らかな繁栄をもたらす進化へ向かっていると言えそうです。数年前に医師の勤務問題が新聞紙上を騒がせ、結果として極端な経営不振に陥りましたが、我々全職員は高知医療センターの職員として何をすべきかをよく理解し実行いたしました。そして急速に経営改善に進み、平成 23 年度は単年度黒字に目標を設定して運営が歩んでいます。またドクターカー（FMRC）やドクターヘリの導入、新規医療機器の整備など次々に取り組まれた企画は新たな変化を生み、以前にも増して県民・市民が頼れる病院となり、「四国の医療の要」を目指して皆様方にお役に立つことができるようになりつつあります。

これまで地域医療連携と広報の充実を最大の課題としてやってまいりましたが、昨年は県民・市民の高知医療センターに対する理解が少しづつ浸透している気配が強くなりました。今年はさらに新たな変化を求め、皆様方と一緒に「夢と希望」の高知医療センターの成長と歴史を築いていきたいと念じております。

これまで地域医療連携と広報の充実を最大の課題としてやってまいりましたが、昨年は県民・市民の高知医療センターに対する理解が少しづつ浸透している気配が強くなりました。今年はさらに新たな変化を求め、皆様方と一緒に「夢と希望」の高知医療センターの成長と歴史を築いていきたいと念じております。

副院長 谷木 利勝



新年あけましておめでとうございます。

平成 22 年 4 月は 2 年に一度の診療報酬改訂の年に当たったため、新しく設定された診療報酬の加算対策として施設基準を満たす必要があり、急性期看護補助、NST（栄養サポートチーム）などの加算獲得に取り組みました。年度の後半からは平成 23 年度の病院黒字化に向かって、各領域の病院改善アクションプラン作成に全員一丸となっていてるところです。

医療関連感染対策委員会では、病院職員の麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体検査や予防接種に関して（費用は自己負担の施設が多いのですが）、院内感染対策の一環として平成 22 年度より病院負担で抗体検査をと提案して実施されるようになりました。

ベッドコントロール対策部会では、平成 22 年度は平成 21 年度に比べて入院患者さんが増えたため、入院ベッドの調整に大変苦労しました。平均して 1 週間に 260 名程の患者さんが入・退院をしています。難しい局面ではその都度、場当たりの対策で切り抜けてしまったことを反省していますが、協力していただいた関係スタッフの方々には大変感謝しています。

ところで、欧米で買い物をするとき、店員が忙しさのあまり眉間にしわを寄せて、いかにも「売ってやる」というような態度をとることがあります。これを英語では attitude と表現します。<Attitude>の意味は英和辞典で、①姿勢・身構え ②けんか腰・つっぱる態度・いばった態度・他人がどう思おうと構わない態度、とあり、一つの言葉に普通の意味・悪い意味の両面の意味があります。一般に欧米人は相手より自分の方が上だと思っているので、客に対してさえ②の意味のような失礼な態度をとることがあるようです。これを医療者と患者さんの関係に置き換えて考えてみると、我々医療者側は患者さんたちに対して②のようにではなく、常に謙虚で礼儀正しい態度をとることが望まれます。しかし、装ったうわべだけの謙虚さや礼儀正しさは相手に通じず、こちらの品性をも疑われます。患者さんが病院に殺到して混乱した時においても、丁寧に、真心を持って対処できるようにしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

副院長・IT センター長 深田 順一



皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな新年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。日頃は高知医療センターとの地域医療連携に対して深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

早いもので、医療センターも今年は 7 年目を迎えることとなり、第一期とも言える立ち上げの時期を完全に脱して、次の飛躍に向かっての変革の時期に入っています。PFI を卒業したのは昨年 3 月のことですが、以降は課題となりました SPC から企業団運営への関連業務の仕切り直しも最終段階に入っています。加えて、今年には院内情報システムを新規システムにリニューアルする作業がいよいよ本格化しますし、ドクターヘリ基地の新設に伴う諸整備に加え、精神科病棟の新設に向けての準備についても、いよいよ本格的なタイムテーブルが動き始めます。

このような中、IT センター長も拝命しております私といたしましては、院内情報システムのリニューアルをどこまで満足できる形に仕上げられるか、そしてこれと並行して IT センターを縁の下力持ちな日陰の存在から、情報の活用で医療センターをリードできる日向の存在に成長させられるかという 2 つの目標に向け努力を傾けたいと考えております。つきましては、本年もこれまでと変わらないお力添えをいただきますよう、よろしくご願ひ申し上げます。

新しい年が皆様方にとりましても幸多い年になりますよう折念ひ申し上げ、この場を借りて新年のご挨拶とさせていただきます。

新しい年が皆様方にとりましても幸多い年になりますよう折念ひ申し上げ、この場を借りて新年のご挨拶とさせていただきます。

地域医療センター長 西岡 豊



謹んで新春のお喜びを申し上げます。皆様すこやかに新春をお迎えのことと存じます。日頃は、高知医療センターとの医療連携にご理解とご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

高知医療センターが地域医療支援病院として承認されてから 4 年目を迎えました。昨年も地域医療センターは前方・後方連携業務をさらに推進し、地域医療機関との連携がより迅速・円滑に行われるように配慮するとともに、連携強化に向けて様々な新しい取り組みを行ってきました。広報活動においては、地域医療センターの広報誌「ほし」を新しく作成し、偶数月に県内各医療機関への発行を開始しました。また、各科の診療科案内「そら」も作成し、地域医療機関及び患者さんの利便性の向上に努めました。さらに、ホームページの大幅なリニューアルを行い、即時に情報をお知らせできるようになりました。また、登録医療機関への登録証の発行とともに、一昨年同様、医療従事者の方々に向けての研修会（地域医療連携研修会）・講習会等の開催、各医療機関・

郡市医師会への訪問等を行い、より顔の見える開かれた地域医療センターを目指してきました。現在、より一層の連携強化を目指して、地域医療機関の方々を対象にして、地域医療センターに関するアンケート調査を開始しており、その御意見や調査結果を今後の活動に反映させ、満足度の向上に努めていきたいと考えております。

今年も、高知県の基幹病院の地域医療センターとして、地域医療機関及び患者さんの安全・安心・信頼の確保に向けた地域医療連携を機能させる責務があると考え、精一杯の努力を重ねてまいります。旧年中と同様、今年もご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

総合周産期母子医療センター長 吉川 清志



明けましておめでとうございます。

日頃は総合周産期母子医療センターの運営にご協力いただき有難うございます。私達は県内の他の施設と協力し、より良い高知県の周産期医療を目指しています。

新聞によると、平成 22 年 10 月 1 日現在の高知県全体の人口は 764,281 人で、5 年間で 32,011 人 (4.2%) の減少でした。高知県の平成 21 年の出生数は 5,415 人で、平成 20 年の 5,788 人よりも 373 人 (6.4%) 減少しています。このような出生数の急激な低下は、人口減少を加速すると考えられます。

高知県は健康長寿県構想に取り組んでいます。高知医療センターは医療においてその実現に寄与しています。その中で総合周産期母子医療センターは、ハイリスク妊婦さんや低出生体重児・新生児の医療の中心的役割を果たしています。周産期の統計指標 (周産期死亡率・新生児死亡率・乳児死亡率) は平成 19 年には総てがワースト 1 位という残念な結果でしたが、平成 21 年はそれぞれベスト 3 位・3 位・2 位と改善しました。何が良かったのでしょうか。大きな理由は、1,000g 未満の超低出生体重児が 33 人 (H19) から 9 人 (H21) に減少したこと。小さな赤ちゃんは亡くなったり後遺症を残す可能性が高くなります。どうか、1,000g 未満の赤ちゃんを産まないように、妊婦さんはきちんと健診を受けて産婦人科医の指示に従って下さい。そして周囲 (家族、地域、企業) の方も行政の方も協力して下さい。お金が無くてもやればできることはいろいろあると思います。

高知県の妊婦さんや赤ちゃんのために、今年もご協力をお願いします。

循環器病センター長 岡部 学



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

県民・市民の皆様、地域の各医療機関の皆様、旧年中、皆様方の多大なご支援をいただきながら当循環器病センターが日々の医療に従事できました事を心から感謝申し上げます。

当センターは、循環器内科・外科が一つのセンターとして高度最先端循環器治療を行っています。当センターは県下で唯一、1 年・365 日・24 時間、循環器専門医が常駐し、救急患者の受け入れ直後より、専門医による循環器疾患救急治療が提供できるシステムをとっております。受け入れ直

後の診断・カテーテル治療から最終的外科手術治療まで、循環器専門医によって切れ目ない迅速な治療を行う事で多くの大切な命を救う事ができました。今年も、この循環器専門医による高度救急救命医療体制を維持し、更に発展強化してまいります。

社会の高齢化に伴い、年々進行する疾患の高齢化・重症化によって、特に循環器疾患においては、より安全性の高い低侵襲循環器治療の実現が益々求められるようになっております。当センターは、この安全性・低侵襲性を最優先目標に日々の診療を積み上げてまいりました。代表的な「低侵襲治療」である心筋梗塞・狭心症、不整脈、末梢血管病変に対するカテーテル治療では、昨年にも全国トップレベルの症例数と成績を収めると同時に、従来は外科手術治療の対象であった大動脈瘤に対しても、カテーテル室での低侵襲なステントグラフト治療により、多くの高齢者・重症症例を救命する事ができました。また、「超高速時間分解能を有する Dual Source CT」を導入する事で、従来は入院が必要であった冠動脈造影検査も、外来での冠動脈 CT 検査として行っております。一方、心臓外科手術においても、「体に優しい心臓手術」をモットーに、年間 300 例を越す心臓・血管手術を行いました。特に、心臓を止めない体に優しい「低侵襲心拍動下バイパス手術」総数は既に 800 例を超え、手術数・成績ともに全国のトップランナーとして走り続けております。

今年も、手術治療からカテーテル治療へ、入院の必要な侵襲検査から外来での非侵襲的検査へと、より「からだに優しく安全な」低侵襲循環器診断・治療を追求してまいります。また、従来の薬物治療の限界とされる重症心不全症例に対しましては、県民の命を守る最後の砦として補助人工心臓に代表される高度最先端循環器医療を今年も積極的に行ってまいります。

今年も一層のご指導・ご鞭撻・ご支援をいただきますよう心からお願い申し上げます。

がんセンター長 森田 荘二郎



新年明けましておめでとうございます。昨年中はがんセンターに多大なるご支援をいただきまして、心より感謝いたします。おかげさまで、ご紹介していただいた患者さんも、年々増加の一步をたどっております。

昨年は、今までに構築してきたシステムの継続・充実を図るとともに、「地域がん診療連携拠点病院現状報告」で新たに設けられた課題をクリ

アすべく活動を行ってまいりました。その結果、診療面・業績面では以下のような成果を挙げる事ができました。①直腸がんキャンサーボードを確立しました。②「地域がん診療連携パス (胃がん・大腸がん・肝臓がん)」を作成し、運用を開始しました。③開院以来の 5 大がんの診療実績を HP 上で公開しました。④がんセンターとしての学術業績 (執筆活動、学会活動など) を HP 上で公開しました。⑤がん患者さんの会「サロン池の会」が毎日開催できるようになりました。

本年も当院でのがん診療実績をさらに充実させていくとともに、以下のような取り組みを行ってまいります。①緩和ケア専門医が 1 月より赴任いたしますので、緩和ケアチーム活動をさらに充実し、緩和ケア診療可算算定に向けての取り組みを行ってまいります。② PET-CT や腔内照射装置などの高度先進医療機器の導入の検討を開始します。③過去の地域・院内がん登録データ、および各種がん治療成績 (5 年生存率など) を公表できるようデータ収集・整理・検討を行ってまいります。

本年も昨年同様、多大なるご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

救命救急センター長 森本 雅徳



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。いつも救命救急センターの運営に多大なご支援、ご鞭撻をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年とは何かと暗い話題しかない世の中にあって、小惑星探査機はやぶさの快挙は久しぶりに日本化学技術の高さを誇れるうれしい話題でした。はやぶさが 3 億 km も離れた直径わずか 500m の小惑星からサンプルを採取して帰還するというミッションを見事果たし、胸のすく思いがいたしました。

救命救急センターにおいては、昨年 8 月に欧州型ドクターカーが導入されました。その愛称を公募し、FMRC (エフマーク) とさせていただきます。すでに 20 数件出動し、実績を上げています。本年 3 月には高知県にドクターヘリが導入され、その運行が開始される予定です。本院がドクターヘリの基地病院に指定され、フライトドクター、フライトナースの訓練や救急管理指令室 (CS) の整備など鋭意準備を進めているところです。これまでの消防防災ヘリに併せて、ドクターヘリ、ドクターカーを活用することで重傷患者の搬送に空陸両面からより迅速に対応することが可能となります。受け入れ施設においても、より迅速に対応できる体制の整備が必要となります。院内のみならず、県内の救急受け入れ施設との連携もより重要となってまいります。関係各位のよりいっそうのご支援をお願いしたいと思います。

地域の皆様方におかれましては、日頃、救命救急センターの運営に多大なご支援をいただいているところですが、今年も尚一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようどうかよろしく願います。平成 23 年が皆様にとりまして明るい年となりますことを祈念申し上げます。

がん連携における
診療連携手帳パス
の運用開始について

この度、高知医療センターでは、**肝臓がん・胃がん・大腸がん**の地域がん診療連携パスを作成し運用することとなりました。

つきましては、地域の先生方にご紹介させていただくにあたり、肝臓がん・胃がん・大腸がんの「**診療連携手帳パス**」を、該当する患者さんにお渡ししております。パスをお持ちの患者さんは、当センターにて『**がん治療連携計画策定料**』を算定している患者さんですので、当センターに対して「**治療経過等についての情報提供**」をしていただければ、月1回、情報提供の都度「**がん治療連携指導料**」として、**300点**を算定していただくことができます。

今後、肺がん・乳がん・前立腺がん・子宮体がんについても同様に、連携手帳パスを随時整備してまいりますので、ご協力の程、宜しくお願いいたします。



高知医療センター

計画策定病院



連携医療機関

①当センターでは、がんの治療目的で**初回入院した患者に対して**、患者さんごとに治療計画を作成し、退院後の治療を地域の医療機関と連携して行うことをご説明します。退院時に診療情報も併せて提供いたします。

①がん治療連携計画策定料 **750点**

②**情報提供**

②がん治療連携指導料 **300点**

①**紹介**

②当センターにて作成した治療計画「診療連携手帳パス」に基づき、外来医療、在宅医療を提供していただきます。またパスに基づき、当センターに対して患者さんの治療経過等、診療情報の提供をお願いいたします。

※患者さんが当センターを受診しなくとも、FAX・郵送等で情報提供をしていただくのみで算定できますが、情報提供にかかる記録はカルテに記載をお願いいたします。

この「診療連携手帳パス」についてのお問い合わせは・・・

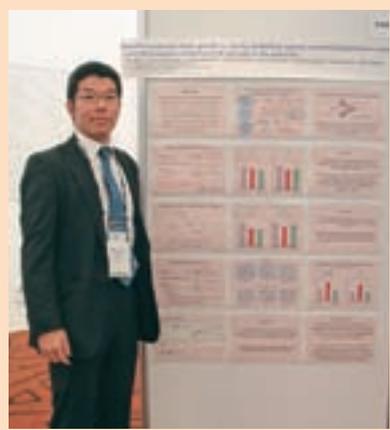
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター 医療事務室 森岡 秀一
電話：088 (837) 3000 (代) PHS(内線)：7802

第 35 回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第 17 回 ISSHP (International Society for the Study of Hypertension in Pregnancy) : 国際妊娠高血圧症会議 in メルボルン

2010.10.7~10 産科 副医長 永井 立平



学会会場前にて：永井立平医師

この秋(10月3日から7日まで)オーストラリアはメルボルンで行われた第17回ISSHP(International Society for the Study of Hypertension in Pregnancy: 国際妊娠高血圧症会議)に参加させていただきました。国外での国際学会は初めての経験であり、少しでもその状況をお伝えできればと思っています。

もともと私の大学での仕事は「胎児脳障害」から始まります。妊娠中、お母さんの子宮の中で赤ちゃんは大きくなります。理由は分かっていませんが、その間に子宮内で何らかのダメージを受け、出生後脳に重い障害をもつ、いわゆる「脳性麻痺」となる子供達は残念ながら一定の率で存在しています。原因は分かっておらず、予測や予防も困難なのが実情です。それを解明することが私の高知大学産科のテーマでした。

今までのラットを用いた研究の中で、脳細胞に障害を与える物質の一つに「活性酸素」の存在があること、それを抑えるのに「メラトニン」という物質が有効であることを突き止めていました。妊娠中に活性酸素にさらされたラット胎仔の脳は障害を受け出生後脳性麻痺の状態となりますが、同様に活性酸素にさらされた妊娠ラットに妊娠初期からメラトニンを投与すると、出生後ラット胎仔脳はダメージを受けていない！ということが諸先輩方の研究から分かっていました。さらに、活性酸素で障害を受けたラット胎仔の体重は正常よりも軽く、胎盤重量も軽いことが分かりました。いわゆる「胎児発育不全(FGR: Fetal Growth Restriction)」という状態です。これも脳性麻痺同様原因が特定されておらず、予防や治療方法がいまだに確立されていない疾患です。FGRモデルラットに妊娠初期からメラトニンを投与すると、胎盤重量こそ正常まで回復しませんでした。胎仔体重低下を防ぐことができていることを確認することができました。これが私の仕事でした。英語の題名は、「Melatonin preserves fetal growth in rats by protecting against ischemia/reperfusion-induced oxidative/nitrosative mitochondrial damage in the placenta」となります。ものすごくかいつまんで言うと、「もしかしらメラトニン投与でラットのFGRを予防できるかもしれない！」ということです。妊娠高血圧症の妊婦さんではFGRを合併することが多く、それを予防・治療することは多くの産科医の求めるところです。世界の反応を確認しにこの演題をひっさげオーストラリアに乗り込むことにしました。

実は今回の国際学会については、研究のポスから言われるまで全く参加する予定はありませんでした。しかしポスの言うとおり、自分の実験データが実を結んだことはある意味奇跡でした。データを出さなくてはいけない時期は臨床と研究を両立させなければならず、それこそ寝る間を惜しんで取り組みました。にもかかわらず、得られたデータの殆どは意味をなさないものでした。多くの時間と

労力を消費し、そのために命を落としたラットたちの数も半端ではありませんでした。ですから、形になるデータを出すことができたこと、一つの仕事として完結し、その集大成として学会に参加できることは非常に幸せなことも知れない、と考えを改めました。

オーストラリアといえば果てのない地平線、大空を覆い尽くすブルースカイ!!を想像していたのですが、一時寄航したシドニーは高知みたいな大雨でした。おまけに自分のトランクは行方不明になり、乗り継ぎ便を1便遅らせ3時間かけてトランクを探し出しました。出だしはさんざんでしたが、食事がおいしかったことは萎えた我々の心を潤してくれました。

学会はヤラ川のほとりにあるメルボルン国際会議場で、演題は132題の口演と128題のポスター演題合わせて260題で催されました。日本からの発表も8題あり口演3題、ポスター5題、そのうち3題で賞を頂くというすばらしい結果でした(残念ながら筆者の演題はスカでした)。日本高血圧学会理事長の江口勝人先生も参加されていましたが、日本人の好成绩に大変喜ばれ、その日の晩は祝勝会を行うこととなり、我々も声をかけて頂き参加しました。高名な先生方と時間を共にし、臨床や研究の話や聞かせていただけたのは何よりの経験となりました。学会を通して感じたことは、日本の学会の内容は決して世界に劣っていないということです。口演にせよ、ポスターにせよ、国内の学会内容は十分Internationalであることを確認することができました。問題点はやはり自分の語学力でしょうか。演者の説明する比較的ゆっくりとした英語は何とか聞き取れても、質問する内容は全く聞き取れませんでした。質問したい内容があっても、とてもではありませんができませんでした。見て見ぬふりをしてきましたが、やはりこれは大きな課題と感じました。

After 5 はゆっくりとはいきませんでした。メルボルンの街中を散策することができました。街並みや人通りなどは日本と似た雰囲気でも過ごしやす印象であり、ここでも障害は語学力でしたが、現地の方々は優しく根気強く下手な英語を聞いてくれました。Post congress はメルボルン大学で行われ、大学構内の研究施設を見学することができました。

いろいろとありましたがあっという間に過ぎた1週間でした。躊躇しながら決行した海外学会でしたが、決して日本では得ることのできない経験をたくさん積むことができました。まさに百聞は一見にしかず、行って良かったと感じています。研究のポスはもちろんのこと、出張を許可して下さった病院、留守を診て下さった産婦人科の先生方、家庭を守ってくれていた妻に感謝しています。

自分の課題もたくさん見つけることができました。臨床に埋もれ、高知というガラパゴスのようなところで下ばかり見ていると、つつい周りが見えなくなってしまうがちです。日々忙しく、つい臨床に逃げてしまいがちですが、アカデミックな臨床の捉え方をしているか臨床も発展していかないと感じました。また海外の空気に触れてみたい、世界で何が起きているのか肌で感じたい、そして見るだけではなく参加したいと感じることができた今回のメルボルンでした。

次回のISSHPは2年後に開催されます。参加できるよう、今から目標に向かって日々精進していきたいと思えます。その時はまた皆さんにお世話になりますが、よろしく願いいたします。

※背景写真：メルボルンの路面電車、一緒に参加したメンバー。幡多けんみん病院濱田 Dr、愛知医大渡辺 Dr



医療法人土佐きび きび診療所

〒783-0007 南国市明見 800
 TEL: 088 (804) 6500
 FAX: 088 (804) 6502
 URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~kibi/index.htm>

(診療科)
 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、
 臨床検査科、糖尿病内科、腎臓内科



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00~12:30	●	●	●	●	●	●	×
14:00~18:00	●	●	×	●	●	×	×

※水・土の午後、日、祝日、年末年始は休止

医療法人土佐きび・きび診療所は、平成 19 年 12 月 1 日に南国市に「安全で確実な医療を行い、患者様に満足いただける」を基本理念に開院し、平成 22 年 8 月には糖尿病内科、腎臓内科も診療科目に加わりました。きび診療所の名前の由来は、中山拓郎院長の出身地が紀州(和歌山県)、白神実副院長の出身地が備中(岡山県)で、二人の出身地の頭文字をとって「きび」となりました。きび診療所ではさまざまな検査が行え、検査画像システムや電子カルテと連動させることで、検査結果や画像を素早く確認でき、スピーディーな診察ができるようになっています。

(き:きび診療所、高:高知医療センター)

高:まず、貴院の特徴をお聞かせください。

き:医師 2 名、看護師 4 名、アシスタント 2 名、管理栄養士 1 名、臨床検査技師 2 名、事務 3 名の全 14 名で診療を行っています。午前 7 時半から検査を開始し、8 時から診察ができます。そのため、仕事前に検査を受け、仕事帰りに検査結果を聞くことが可能です。肝機能や腎機能、ホルモンなどの血液検査は 30 分程度で結果がわかります。CT や内視鏡装置、臨床検査機器類など、病院並みの医療機器を揃えており、本格的な電子カルテも稼働しています。

高:貴院が力を入れていることはどのようなことですか？

き:当院で診断・診療可能な病気を明確にして治療を行い、医療ミスを起こさず、患者さんが安心してかかれる診療所ということに力を入れ、地域に根ざした診療所を目指しています。毎月、糖尿病教室や腎臓病教室などを開き、慢性疾患の患者さんの支援をしています。また、原則として予約診療を行い、待ち時間を短縮し、

患者さんの院内滞在時間が短くなるようにしています。

高:自宅療養支援についてはいかがですか？

き:当院は訪問診療(往診)や訪問看護を行い、自宅療養の支援をしています。訪問診療は現在、大体月に 5 回ほどしており、訪問診療を希望される方がいましたら、診療の合間に行ける範囲でどこにでも往診しています。毎週往診する方もいますし、時々の方もいます。訪問看護も同じく、依頼があれば伺っており、高齢者でなかなか診療所に来られない方などの所へ伺っています。また、最近では、当院の管理栄養士がご自宅まで伺い、お食事のメニューを見せていただいて、食事の量やバランスなどについての栄養指導もしています。

高:地域との連携や他医療機関との連携はいかがですか？また、何か連携において難しいと感じることはありますか？

き:できる事とできない事を明確に分けて診療にあたり、他の診療所や病院との連携を図りながら、包括的な医療を行っています。連携をしていく中で難しいと思うことは、なかなか患者さんの受け入れ先が見つからず、いろいろな医療機関に問い合わせましたが、断られることも多いことです。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。



写真左から:白神実副院長、中山拓郎院長

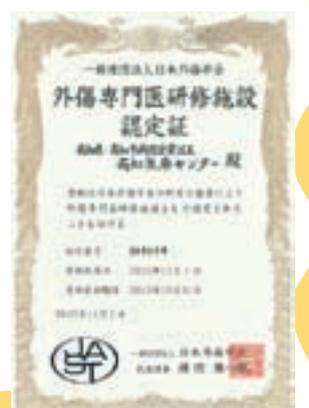
外傷専門医研修施設として認定されました！

NEWS
Vol.18

2010 年 11 月 1 日に、高知医療センターは一般社団法人日本外傷学会より、『外傷専門医研修施設』として認定されました。認定条件は、

- 1) 外傷専門医が 1 人以上常勤として勤務していること。
- 2) 日本外傷データベースの施設会員であり、AIS 3 以上の症例を年間 50 例以上、3 年以上継続して登録していること。
- 3) ISS 16 以上の症例を年間 25 例以上診療していること。(※一般社団法人日本外傷学会専門医制度施行細則より)となっています。

日本外傷学会ホームページ <http://www.jast-hp.org/>



高知医療センター イベント情報

日	曜	1月～			
20	木	セルフマネジメントプログラム研修会 ※事前申込不要、参加費無料			
		内容	セルフマネジメントプログラムの実際とその効果	講師	日本慢性疾患セルフマネジメント協会 武田 飛呂城 氏、千脇 美穂子 氏
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	18:00～19:30 対象 医療従事者
お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室					
21	金	第10回医療安全管理研修会 ※事前申込不要、参加費無料			
		内容	深部静脈血栓症予防管理について ～フットポンプと弾性ストッキング使用時の注意～	講師	コヴィディエンジャパン 日本シャーウッド（株） クリニカルセル推進室 湯沢 千穂 氏
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	18:00～19:00 対象 医療従事者
お問い合わせ：高知医療センター 医療安全管理センター Email：iryooanzen@khsc.or.jp					
27	木	心のケアシリーズ3 ※事前申込不要、参加費無料			
		内容	抑うつ状態の患者の看護	講師	海辺の森ホスピタル 精神看護専門看護師 福田 亜紀 氏
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	18:00～19:30 対象 医療従事者
お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室					
28	金	産科医療における救命救急や麻酔に関する講演会 ※事前申込不要、参加費無料			
		内容	産科救命救急と麻酔～出血・肺塞栓・心肺蘇生～	講師	埼玉医科大学総合医療センター 産科麻酔科 准教授 照井 克生 氏
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	18:30～20:30 対象 医療従事者
共催：高知大学医学部高知県周産期医療人材育成プログラム 主催・お問い合わせ：高知医療センター 医療局					
29	土	第15回地域医療連携研修会 ※事前申込不要、参加費無料			
		内容	脳卒中にならないために、なった時のために	講師	高知医療センター 救命救急センター センター長 森本 雅徳 氏
		内容	口腔ケアのすすめ～お口の中を探検してみませんか～	講師	高知医療センター 歯科衛生士 野崎 愛 氏
場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	14:00～15:40 対象 医療従事者、一般		
お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室					
29	土	第16回（平成22年度第3回）高知医療センター地域がん診療連携拠点病院公開講 ※事前申込不要、参加費無料			
		内容	最近の胃がん診療～診断と治療の実際～	講師	高知医療センター 一般外科・乳腺内分泌外科 医長 尾崎 和秀 氏
		内容	最近の肺がん治療	講師	高知医療センター 呼吸器外科 科長 岡本 卓 氏
		内容	整形外科で治療するがん	講師	高知医療センター 整形外科 医長 米田 泰史 氏
場所	安芸商工会議所2F大ホール	時間	14:00～16:30 対象 医療従事者、一般		
お問い合わせ：高知医療センター 事務局医事課 電話：088（837）3000（代）（内線3455）					
2/11	金	第1回高知医療センター看護実践発表会 ※事前申込要（参加申込票にご記入の上FAX：088（837）6766、参加費無料			
		内容	こころをつなく、看護をつなく	講師	北海道医療大学大学院 看護福祉学研究所 教授 石垣 靖子 氏
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	13:00～17:00 対象 医療従事者
お問い合わせ：高知医療センター 看護局 看護実践発表会 担当：野中					

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。日頃より、地域医療機関の皆様には患者さんのご紹介や転院をお受け頂き心から感謝申し上げます。毎年、地域の医療機関を訪問させて頂き、貴重なお時間の中でいろいろなお話を拝聴できましたこと、ありがたく思っております。また連携は、医療に携わる方々のご理解とご協力が重要である事を日々実感し、地域医療機関の皆様方には感謝しているところです。

今年は、看護を通して地域医療機関の看護師の皆様と高知医療センターの看護師との交流の場を設け、より一層、地域の医療機関との連携を深めていけたらと考えています。地域の医療機関の皆様と一緒に、「こころをつなぎ、顔の見える地域医療連携」を築いていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。（地域医療連携室 室長 大西信子）



平成23年1月1日発行
にじ 1月号（第63号）
責任者：堀見 忠司
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：地域医療センター
地域医療連携本部
印刷：共和印刷株式会社

高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL：088（837）3000（代）